

清政

神道政治連盟京都府本部会報
平成17年12月7日発行(年2回発行)



御製
波立たぬ
世を願ひつつ
新しき
年の始めを
迎へ祝はむ

愚公、山を移す
祝辞／宮崎会長・田中厅长
食育を考える
五年の歩み
戦没英霊追悼慰霊祭・時局講演会
事務局からの活動報告
第19回会員大会
おがたまの木コンサート

39
35周年特別号

愚公、山を移す



神道政治連盟京都府本部
本部長 林 秀俊

連合赤軍や核マル派等の極左暴力集団が日本の共産革命を画策しテロ活動が頂点に達していた昭和四十五年十一月、「忠義と報国は武士の本分で有って、日本男子(益荒男)は如何に皇国の為、何を成すべきか!」と士(もののふ)の生き様を、尊い一命を以って国民に示した「三島事件」がおきた。

恰もその同じ年月に神道政治連盟京都府本部が結成された所以には先輩諸兄の祖国に馳せ巡らす篤き愛国の思いを感じずにはおれない。

更に本年は奇しくも日露戦争戦勝百周年・大東亜戦争終結六十周年の年にあたる。

この三十五年を顧みるに先輩諸兄が残され数々の国民運動の成果に敬意を表したい。

しかし未だ解決しない問題が山積しており、先人の意志をしっかりと受け止め我々が心して取り組まなければいけない問題を抱えている。

神政連の活動の中心である「皇室の尊厳護持に係る問題」更には国の為に尊い命を捧げられた英霊をお祀りする「靖國神社の問題」である。これら国の根幹をなす問題を政治家達は意図も簡単にその場を凌ごうとしている。

その一つとして昨年の十二月に「皇室典範に関する有識者会議」が設置され皇位継承問題について議論され、長きにわたって継承されてきた皇位の継承方法を短期審議によって拙速にも「皇室典範改正案」を明年の通常国会に提出する方針が示された。

神社本庁では今回の政府の取り組み方に我が国の歴史や明治の皇室典範の制定過程を軽視しているとして、本年の三月十八日には「皇室典範改正に関する神社本庁の基本的な

姿勢について」と題する四点の見解が示された。しかし十月二十五日の第十四回会合では、我々の思いとは裏腹に「安定的な皇位継承を維持するため、男系男子に限っている皇位継承資格者を女性皇族に拡大する。いわゆる女性天皇と、女性天皇の子（女系）の即位を容認することによって一致した。」と報じられた。歴史上、八人の女性天皇が即位しているものの、それはいずれも男性天皇の皇女（男系）であり、その女性天皇の子供（女系）が即位した例はないのである。皇位は男系で引き継がれそれが万世一系、百二十五代にわたる皇室の大原則であり、この原則が守られてきたゆえに、その伝統や正統性が敬われ、天皇が国民統合の象徴となってきたのである。



ロボット工学者の吉川弘之元東大総長を座長とするこの有識者会議は十人の委員で構成されているが、この委員の中には皇室の制度や歴史、伝統に精通した専門家、有識者がいないと指摘されており、政府のこの問題に対する考えの軽薄さに懸念を抱かずにはおれない。

三笠宮寛仁殿下は、自身が会長をお務めになられる福祉団体の会報で「女性天皇」に触れ、「歴史と伝統を平成の御世でいとも簡単に変更して良いのか」「万世一系、百二十五代の天子様の皇統が貴重な理由は、神話の時代の初代・神武天皇から連綿として一度の例外も無く、『男系』で続いて来ているという厳然たる事実」「国民一人一人が、我が国を形成する『民草』の一員として、二六

六五年の歴史と伝統に対しきちんと言見を持ち発言をして戴かなければ、いつの日か、『天皇』はいらないという議論に迄発展するでしょう」との掲載エッセイが読売新聞始め各紙に報道されたことは、この記事により慎重論議が高まり、男系男子の皇位継承の重要性についても善

良な国民の耳に届くことになったことは幸いである。

もう一つの問題が「靖國神社の問題」である。東京裁判を肯定し、日本の戦争責任だけを追及するという極めて自閉的な姿勢こそが進歩的日本人であり、平和主義者であるがごとく横行闊歩しているやからを看過している現状に、先の戦争において家族や社会、国の為に尊い命を散華された英霊たちは酸鼻の極みである。

九月三十日に大阪高裁にて判決が下された靖國神社台湾人訴訟においては裁判官のマスコミ受けを狙った、「ねじれ判決」「蛇足判決」が下され、憲法判断は下級審では出来ないのが現状であるにも拘らず傍論による違憲判断は、極めて恣意的としか思えない。



十月十七日の総理の靖國参拝に対するマスコミ各社の偏向報道、媚中政治家、王毅駐日中国大使曰く中国の有人宇宙船神舟六号帰還に関連させたこじつけ批判、中韓しかりである。

取分け彼らによってA級戦犯の分祀、遷座と英霊を弄ぶような発言が横行しているが昭和二十七年四月の第十六特別国会において、戦争犯罪裁判の殉難者達、世に「A級戦犯」と呼ばれる十四人を含めたすべての殉難者たちを、靖國神社に合祀することが自由党、改進黨、右派・左派の社会党の与野党全会一致で決議されているのである。

中韓の内政干渉に揺るぐことなく、国の為に働き命を落とされた英霊に対し、時は移れども生涯心して大切にしなければならぬ。

愚公移山、神道精神を日本再生の基礎に据え、我が国の伝統、文化、歴史を正しく後世に伝え日本の誇りを回復することこそが神政連に課せられた務めである。



設立三十五周年によせて

神道政治連盟会長 宮崎義敬

九月の衆議院総選挙で自民党は圧勝したが、これは一種のパブル現象で、自民党が支持基盤を強化した成果ではなく、郵政民営化の是非を問う一点突破主義の小泉旋風の戦略的勝利であった。小泉首相は「郵政民営化なくして構造改革はできない」と主張されたが、私は「日本人の精神構造の改革なくして何ができるのか」と言い続けてきた。行政改革も財政改革も急務であることは承知しているが、それ以上に問題なのは我が国の人的資源の劣化であり、日本人が駄目になったということである。その要因を認識して対策を急がないことには、日本再生への道は拓けない。

戦後は日本の過去を否定するところから始まり、歴史や伝統や文化を軽視する風潮の中で誇りや自信が持てなく

なり、物量的福祉を求める甘えの精神構造が財政を逼迫させていると言っても過言ではない。国民年金を掛けない若者が、「将来、年金はもらえなくても生活保護費はもらえるだろう」と言っているが、いかに自立心を失っているかがわかる。国を支える一員としての義務は果さなくても、国から見捨てられることはないと思込んでいるこの甘さは、グローバルゼーションの荒波に揉まれようとしている時代に脆弱の上もない。

紀元節の復活を目指して運動を続けてきた神社界が、「建国記念の日」の実現を見るまでに要した十余年の経緯から、新たな全国組織の必要を痛感し、斯界の総意によって結成されたのが神道政治連盟で、それに呼応していち早く京都府本部も設立され、三十五年にわたる活動を進めてこられた。教育基本法の改正や憲法改正への取り組みをはじめ、靖國神社をめぐる問題一つにしても特に正念場を迎えたと言ってもよく、この節目を契機に貴本部のさらなる御発展と各位の御活躍を祈念してやまない次第である。



祝辞

京都府神社庁長 田中恆清

この度神道政治連盟京都府本部が創立三十五周年を、また京都府敬神婦人連合会が結成されてより五十周年という佳節を迎えられ、本日ここに盛大に共催で記念の行事が開催されますことを先ずもって心から御祝い申し上げます。

今から五年前当時私が本部長として創立三十周年記念事業を実施し、三十年の歴史を振り返りつつ今後の神政連の役割が様々な形で議論される機会となった年でありました。また神社本庁評議員会にて評議員各位より提出される案件の多くは、神政連が取り組まなければならぬ事柄ばかりでありました。それ程現在の我が国の現状は憂慮堪えないものとなっておりますが、ご承知の通り我々神社関係者の求めると

ころは個人の利益ではなく、国益や伝統ある国柄をどうしていくのかであります。そしてそれらを実現させる為に政治の力はどうしても不可欠であり、その力を動かすのは多くの国民の正しい声であります。上辺だけの心地よい報道によって一部マスコミがあたかも国民全体の声の様に報道し世論を操作する現状に対して我々神社関係者が一丸となり正しい世論を喚起する国民運動を展開しなくてはなりません。

現林秀俊本部長は、新しい発想で積極果敢に勇氣と情熱を以って何事にもひるむことなく挑戦される人物であります。私が本部長として行なってきた事業をさらにグレードアップして活発な活動をしていただき、さらに若い人々にも靖國神社参拝を呼び掛け、また京都府での戦没英霊追悼慰霊祭の斎行や本日のごとく敬神婦人会や神政連中央本部と連携しこのようなシンポジウムを企画され、多くの方々にご参加戴き、更に同志の輪を広げていくことは大変有意義なことであり心強く感じております。神社庁と致しましても出来得る限りの協力をいたす所存でございますので、役員及び会員各位の益々のご活躍とご健勝を切にお祈り申し上げます。

今という時 ⑧ 特集

食育を考える

お話し 栗栖正博さん (たん熊北店代表取締役社長)



今、教育委員会と日本料理アカデミーがタッグを組んで小学生を対象とした食育のカリキュラムを作っています。即ち、教育者と調理師専門学校の先生方の意見と、小さな子供の親である我々料理人が、自分達が子供の時に何を食べ、今の子供達にどのような物を食べさせてあげたいか、等という想いをまとめています。そして、それを実践し、子供たちがどのように感じ、またお母様方がどのような意見を持たれるのか、反応を確かめたいと思います。

■子供達の食生活に問題あり

小学生から高校生の食生活の現状で目立つ部分を言うと、お小遣いを貰って自分達の好きな物を買って食べるという傾向が非常に強い事です。親は子供が何を買って食べているのか分からないし、子供達だけでコンビニやファストフードのお店に行っている姿をよく見かけます。そして、出来合いの物を食べています。百貨店の地下でお母さんが買って来た物を電子レンジで温めて食べたりコンビニで子供達が勝手に買ってその場で食べた、そうすると親が見ていないか

ら作法も何もない、地面に座っておにぎりをかじりながらコーヒー牛乳を飲み、唐揚げ弁当を食べ炭酸飲料を飲むという風に、栄養のバランスとか、食材の取り合わせが無茶苦茶になっています。そして本来お昼に食べるべき物を夜に食べたりしています。さらに食べる時間も夜遅く、しかも自分のしたいことをするためにガツガツと食べるというように、食事に時間をかけていません。その上、親の中には、子供に勉強させたいがために、食事に長い時間をかけ、家族が団欒し、他愛も無い話をするをもつたいないように思っている人もいます。しかし、本当はそこが大事なのです。お父さん、お母さん、そして兄弟や祖父母がいて、家族一緒に食べる事が良いと思うのですが、今や、子供が勝手に電子レンジで温めて食べ、お母さんは他の家事をしている、お父さんは帰っていないという状況です。まず、こういった状況を改善していきたいと思えます。

■食生活が乱れるとストレスがたまる

このような状況を続けていくとストレスがたまります。好きな事をしていても、

近年、注目されている「食育」という言葉。本年六月には「食育基本法」が成立しました。子供たちがすぐキレたり、攻撃的な行動をとることが問題になっていますが、一昔前とは大きく変わった食生活のあり方も要因の一つと考えられています。平成十六年、「日本料理アカデミー」を設立され、日本料理の素晴らしさを世界に発信していきたい、と意欲的に語られる、株式会社たん熊北店代表取締役社長の栗栖正博さんに、普段、料理に携わっていらっしゃるお立場から、「食育」という言葉に対する想いを伺いました。

自然な食生活をしていないので自ずとストレスがたまるのです。寝るべき時に寝る、食べるべき時に食べるという生活のリズムが崩れると、成長期の子供は特にストレスがたまりやすくなります。しかもバランスの良い物を食べないと、ちゃんとした体作りが出来ないのです。そうするとイライラしたり、ちょっとした事でも、ものすごく気分が悪いと感じたりするようになります。そして「やってまえ」とか本気が冗談かわからない汚い言葉を平気で使っています。以前ならこうした汚い言葉を使うと祖父母や父母に叱られたので使わなかったのですが、今は子供達だけで勝手に過ごす時間が増え、さらに子供同士の会話に先生が介入出来ないような状況です。私が子供の頃は、人間として言うてはいけない言葉を言ったり態度が悪いと廊下に立たされたり、たまにはゲコツをくれる厳しい先生が大勢おられ、学校でも道徳的な躾をしてくれました。家では父親が厳しかったものですが、ちよつと言葉尻が生意気になっただけだから厳しく怒られました。それでも私達が受け入れられたのは、今のようなストレスが無かったからだと思います。ちゃんとしたものを食べて生活のリズムがしっかりとっていたからで、それが崩れるとイライラし、自分を育ててくれている親に注意されても反抗します。しかも先生も押さえられないとなると、犯罪を起こし、世間を騒がす事件につながっているように思います。

■家に帰って手料理を

それらを防ぐには、食生活を正し、家でお母さんが作った物を食べると良いのです。そうすると、お母さんに対する感謝の気持ちが増えます。ところが、今の子供達には、お母さんが作ってくれなくてもお金さえあれば何でも手に入るという感覚があります。小学校の三・四年生でも買い食いをしていますが、家に帰らないと食事がとれない、という状況に戻すべきだと思います。

●家庭での食事で気をつける点はどういうこととお考えですか。

日本人は長年、「ご飯と味噌汁とおかず」という、農耕民族としての胃腸の状態に合った、バランスのとれた食事をしてきました。味噌汁に含まれている発酵菌は、ヨーグルトと同じように、お腹の中で善玉菌を作ります。その和食のパターンが急に変わると成人病などの病気になります。今は、糖尿病の子供までいます。それは甘い菓子や糖分の多い缶ジュースを外で買って口にするからで、昔のような饅頭やわらび餅・ふかした芋とお茶といったおやつなら日本人の体にピッタリ合っているのです。また冬には、大根や海老芋などの根野菜を食べますが、根野菜には体を温める成分が含まれています。一方、夏に実のなるキュウリやナスやトマトは、体を冷やす野菜です。ところがそういう

ことを知らずに、うちの子供はキュウリが好きだからと、冬でもマヨネーズをかけて食べさせているお母さんがいます。「冬には大根とお揚げの熨いた物とか美味しいじゃないですか」とお母さんに言うのと、「うちの子はそれは嫌いなのです」とおっしゃいます。「好きとか嫌い、ということではなく、その季節にはそれを食べさせないと体に良くないですよ」と言っても、分かってももらえません。自分の子供が大切なら、元気にすくすく育つようなことを考えないといけないと思うのです。ところが、子供の機嫌をとって好きな物を食べたら良いという家庭もあります。それを改め、ちゃんと食べるべきものを食べて健康な体を維持し、それから勉強させないと本当の立派な大人にならないと思います。そこが食育の大事なところだと思います。

■作法を知ろう

それではそのためにどうすれば良いのか、教育施設で何が出来るといおうと、先ずは作法です。食事をする時にはきちつと座って姿勢を正す、と我々は小さい時から教えられました。そして手を合わせて「いただきます」と言う。カトリックであればお祈りをする。このように「いただきます」と言うのは、命あるものを戴くからです。人間は、魚は勿論、腐った野菜を食べることは出来ません。すなわち生きている元気な野菜しか食べられないのです。野菜にしても魚にしても

鶏にしても肉にしても、その命を戴いているのです。ですから、「いただきます」は料理をした人や、その食材を丹精込めて作ってくれた人に言っていることは勿論のこと、その食べるものに対しても言っているのです。そういったことを、まだ素直な小学校三・四年生の子供に説明すれば、よく分かってくれると思います。そしてお箸の持ち方やお碗の扱い方です。日本ではお碗を持って食べますが、これは日本独自の作法です。もともと日本でも、スプーンとお箸で、大陸と同じく中華料理を食べるような作法をしていたのですが、やがて他の人が見ても美しい姿勢を作り出したのです。そして机と椅子ではなく、日本の気候風土にあった、畳を敷いてお膳を出す様式になりました。こうして和様が確立され、日本が文化的



に大陸から独立したのです。

こう考えると、日本に住んでいる以上は日本のルールを知っていたほうが良いのです。海外に行った学生が帰ってくるなり、日本料理やお茶や生け花のことを教えてくださいと駆け込んでくることがあります。外国に行けば、茶道や日本料理のことを尋ねられます。国際人になるためには、日本人であれば日本のことや作法を知っていないといけないのです。そういうことも食育に含まれると思います。例えば海外のパーティーで日本料理を作るように言われて何も出来なければ、それは非常に恥ずかしいことです。日本人である以上は日本の食生活や作法について知っておかなければなりません。こうした事を知っていると、海外の人とコミュニケーションをとる上でも有利になるのです。

好き嫌いをなくす良い方法はありませんか。

私にも中学生の女の子と小学生の男の子がいます。好き嫌いを言いますが、子供達には「嫌なものでも一口でいいから食べなさい。苦くても嫌でも、その内に慣れるから」と言ってお食べさせるようにしています。子供の味覚はとて敏感です。その敏感な間に、苦い物も酸っぱい物も甘い物も辛い物も全てを知っておく必要があります。そうでないと味がわからなくなります。油濃くて、甘辛いパーベキュー味の物ばかり食べていると、薄味の物がわからなくなってしまうのです。ですから、とにかく一口でも食べるように言います。そして一口でも食べたら褒めることが必要です。

■調理法を工夫し、嫌いをなくそう

日本料理は、灰汁をとって調理をする料理です。例えば、筍はそのまま食べたら苦いのですが、糠湯がきすることによってえぐみが取れ、食べられるようになります。ですから、もし、ほうれん草が嫌いな子供がいたら、その子にとって、ほうれん草の嫌な部分をどのようにすれば取り除くことが出来るか、胡麻和えにしたら食べられるのか、炒めたら食べられるのか、それを考えれば良いと思います。料理のテクニクを学ぶことで、食べられなかった物が食べられるようになる、これはものすごく嬉しいことです。

以前、ある小学校にうちの料理を持って行って子供達に食べさせたことがありま

す。普段小学生が食べたことが無い食材を使った料理にチャレンジしたらどうかと言うと、初めて食べたにもかかわらず、おいしいと言いました。そういう経験をすると、ずーっと食べたくなりますよね。今は食べず嫌いが多いように思います。ある食材を最初に食べた時、えぐいと嫌いになりますが、他の方法で料理すれば食べられるのではないかと、苦手な食材を克服する食生活を考えて欲しいのです。けれども今の母親は、子供がある料理法で調理したものを食べないと、もうその食材が嫌いなのだと諦めてしまうようです。とにかく、何でも食べることが、特に野菜は、ビタミンやミネラルが豊富ですから、出来るだけたくさん食べないと栄養のバランスがとれません。

今の子供は、肉は放っておいても食べますから、魚と野菜が食べられる方法を考える、アジや秋刀魚など背骨の魚の小骨を嫌がるお子さんも多いですが、小骨をとるのはお母さんの愛情です。そして子供の前に一所懸命小骨をとっていると、やがて「僕がするから」と子供が言うようになり、親の愛を感じ、感謝の気持ちで湧き、恩返しをしようという気持ちが湧いてくるのです。

そして家でお母さんと一緒に食事を作り、お父さんにそのことを話して食事をし、食べて「おいしい」とお父さんから言われると会話弾みます。家族団欒は、テレビを一緒に見ているだけではダメなのであり、一緒に何かを作り出すことが

大切です。そして食べておいしければ、更に楽しいでしょう。そういったことが今は欠落して来ているように思います。そしてそれをもう一度取り戻すために食育があるのだと私は思います。

最初に学校での食育のカリキュラム作りについてお話を伺いましたが実際にはどのようにですか。

小学校の先生が生徒に指導できるようなカリキュラムを考えているのですが、京都市の教育委員会の説明では、一年間に三時間の授業時間を確保することが一杯とのことです。ですから、四・五年生の六時間で何をするか、ということになります。今は、食べることが嫌な子供もいると聞きます。食べることの楽しさを伝えたいと思います。美味しい物を食べたら楽しくなるという事がわかっていないのです。調味料の配合によって、だしの味が変わり、それを吸い込んだ食べ物の味が変わります。そしてこのメカニズムを覚えると、作る事が楽しくなります。甘い調味料と辛い調味料と一緒に用いると、バランスのとれた美味しい味になります。どういう食材にどのような味をつけると美味しくなるのか、それを家庭科の時間などに実習して欲しいと思います。サラダではドレッシングをかけるだけです。料理の基本は「煮炊き」です。大根でも芋でもいいから炊いてみる、まず、昆布と鰹のだしの味を見て、それ



に醤油や味噌を加えて自分で味をみる。これに大根の下味したものを入れる、さらに料理をしたその日とあくる日では味が違うことを確かめるのです。そうすると料理を作る面白さが子供達に分かると思います。

それに包丁の持ち方、使い方を教えます。今は包丁の持ち方を知らない女子大生もいます。怖がって刃から遠いところを持つので、危なっかしい上に上手に切れません。かつら剥きをするには、右手と左手の力のバランスが肝腎で、指の力が必要です。その点刻み物は力がいりませんから、小学生の授業では、刻み物、適当に乱切りをします。しかもその方が輪切りにするより色々な形になるのでドレッシングが絡みやすく、サラダなどもおいしく感じます。

学校の給食について何かお感じになることはありますか。

給食は栄養士の先生がバランスなどを考えてお作りになっています。ただ一年に一度ぐらいは私達のような料理屋が作った晴れの料理を一品でも味わうのも良いのではないかと思います。すなわち小学生の間から結婚式とか誕生日などの「ハレ」と、普段の「ケ」があるということを知っておくことも大事ではないでしょうか。

また、お正月にはお雑煮やおせち料理を戴き、節分にはお豆、初午にはいなり

寿司と、京都では季節の行事にあわせて食べる料理があります。例えば、一月の最初の給食の日に七草粥を必ず出して、どうしてこの行事にはこれを食べるのかといったことを、親や先生が教えると日本文化の勉強になります。このようにして、日本人が昔から食べてきたものを何らかの形で紹介したいと思います。これも食育の方法だと思います。

また日本料理の伝統的な野菜は大根です。大根は大きいので昔はものすごく価値があったみたいですが。大根は平安時代から野菜の王様です。ご飯と味噌汁と大根があれば何とかなるというようところがありません。

雪国では、大根を上の中に埋めておいて、冬の間それを取り出して食べていたと聞いています。

日本では、そうした苦勞をして食糧を確保していた時代は過ぎましたが、以前は、狭い国土で採れたものを皆でわけあって食べてきたということの子供たちに教えたいたいと思います。今でも、世界の中で最貧国に行けばトウモロコシの粉を水にといて舐めるようにして食べています。あまりに悲しいので子供たちには見せないようにしていますが、そういうことも知っておく必要があります。日本には世界中から豊富に食べ物が集まり、私達がどれだけ贅沢をしているのか、お米一粒をとるのにどれだけ苦勞があるのか、そういうことを知れば感謝

の気持ち湧いてきて、食べる物を大事にし、食べ残しをしないように、無駄な買い物をしないようになると思います。

年中行事と料理のお話を伺いましたが、人生儀礼と料理の関わりは如何ですか。「食い初め」という言い方もありますが、祖母などは「食べ初め」が正しいとも言います。

京都では「食べ初め」と言いますね。たん熊でも、お客様のご要望で「食べ初め」のお祝いのお膳を子供さんにも用意し、お赤飯に尾頭付きの鯛の焼き物、そして菌固めのために蛸の料理を用意しました。あるいは黒いつるの石を置きます。

この前もお宮に黒い石をもらいに来られた方がありました。

そのように神社の石を戴いて帰って大切にされるといことはすくく良いことです。お宮参りがあると、食べ初めがある。七五三参りがあり、そして京都では十三参りまで、子供の年齢によってお祝いをしていくと決まっています。ご存知の家庭は多いでしょうが、そのようなことも、守り伝えていきたいですね。



栗栖正博さん プロフィール

昭和32年10月16日生まれ。立命館大学経済学部卒業後、昭和57年、たん熊北店に入社。昭和63年4月、代表取締役位に就任。日本料理アカデミー専務理事を務め、辻調理師専門学校、京都調理師専門学校などの講師を歴任。近著に「たん熊の茶懐石」(淡交社)、「和と中華のおいしい豆腐料理」(柴田書店)などがある。

たん熊北店 京都市中京区西木屋町四条上る紙屋町

昭和3年の創業以来、谷崎潤一郎や吉井勇ら文豪にも愛され、伝統的な京料理に精進と工夫を重ねられて来た。四季の風趣を凝らした懐石料理に加え、「たん熊」と言えば「丸鍋」と言われるほど、すっぽん料理は冬場の名物になっている。



神道政治連盟京都府本部 平成十三年～十七年
五年の歩み 「あしあと、写真帳」より



平成14年5月29日(水)～30日(木) 於/ガレリア亀岡
■**憲法及び教育基本法改正に向けた研修会**
教育基本法の成立過程と六つの提言
講師/明星大学教授 高橋史郎先生
我々の目指す日本らしい憲法
講師/神道政治連盟主席政策委員 田尾憲男先生



平成13年12月12日(水) 於/京都府神社会館
■**平成13年度時局講演会**
若い世代のナショナリストとして
講師/参議院議員 ありむら治子先生



平成14年6月8日(土) 於/京都全日空ホテル
■**第16回会員大会**
日本人よ、「歴史」と「公」を取り戻せ
講師/アサヒビール名誉顧問 中條高德先生



平成14年12月9日(月) 於/京都府神社会館
■**平成14年度時局講演会**
日本の防衛と政治的意志
講師/元防衛技術協会理事長 関 肇先生



平成15年6月28日(土) 於/京都府神社会館
■**第17回会員大会**
非常識なマスコミが国を誤る
講師/元朝日新聞社編集長 稲垣 武先生



平成14年11月26日(火)～27日(水) 於/沖縄県・沖縄京都の塔、波上宮、嘉手納空軍基地他
■**沖縄慰霊参拝団結成・巡拝旅行**



平成15年5月30日(金) 於/京都府神社会館
■**憲法及び教育基本法改正に向けた研修会**
これでいいのか!日本国憲法
講師/日本研究センター所長 伊藤哲夫先生
教育基本法の改正について
講師/皇學館大学助教授 新田 均先生



平成15年7月13日(日) 於/京都文化博物館別館ホール
■**教育正常化キャンペーンコンサート「心に響くやさしい調べ」**
出演/山澤直子氏 マリオネット



平成15年12月16日(火) 於/京都府神社会館

■平成15年度時局講演会

アジアの激変、日本の国家戦略、憲法

講師/ (財)国際東アジア研究センター顧問 市村真一先生



平成15年12月4日(木)~5日(金) 於/ 沖縄県・沖縄京都の塔、普天間宮他

■沖縄慰霊参拝団結成・巡拝旅行



平成16年8月21日(土)~23日(月) 於/ 京都市内各所

■天皇后両陛下下御入洛御奉送迎



平成16年6月23日(水) 於/ 八坂神社常磐新殿

■第18回会員大会

教育の未来・日本の未来

講師/ 前東京都国立市教育長 石井昌浩先生



平成16年12月3日(金) 於/ 賀茂御祖神社研修道場

■戦没英霊追悼慰霊祭並びに平成16年度時局講演会

蛇足判決の違法性

講師/ 横浜地方裁判所判事 井上 薫先生



平成16年7月11日(日) 於/ 京都文化博物館別館ホール

■おがたまの木コンサート「想い想われ ふりふられ」

確かな世界へ帰っていく物語

講師/ 皇學館大学教授 橋本雅之先生

出演/ マリオネット



平成16年12月1日(水)~6日(月)

■「もうひとつの戦争展」

於/ キタオオジタウン SPACEろさんじ



平成16年10月12日(火)~13日(水)

■沖縄・京都の塔慰霊参拝団研修旅行

於/ 沖縄県・沖縄京都の塔、斎場御獄、ひめゆり平和祈念資料館他



平成17年3月29日(火)~30日(水) 於/ 靖国神社、国会議事堂

■大東亜戦争終結60年靖国神社参拝団結成・参拝旅行

京都府 戦没英霊追悼慰霊祭

日時 平成十七年九月二十六日(月)



本年も神政連としてなすべき英霊追悼行事の提言として、松尾大社をはじめ関係各位協力のもと、京都府戦没英霊追悼慰霊祭が厳粛裏に斎行され、二五〇名あまりの参列者の真心籠った祈りが捧げられた。これまで中心となり英霊追悼のため慰霊祭をつとめてこられたご遺族、戦友もご高齢となられ、これからはその志を戦中戦後生まれの私たちが中心となりしっかりと引き継いでいかなければならないと、決意も新たに英霊顕彰、感謝と追悼の意を表す「海ゆかば」を合唱。そして慰霊を通して戦争の犠牲になられた英霊に思いを馳せ、御魂を身近に感じ、清らかなひとときに身を浸した。

祀る靖國神社に私的参拝という現状。中国や韓国内政干渉。そして東京裁判においてA級戦犯の汚名を着せられた昭和殉難者の分祀問題。こともあろうに一部の首相経験者をはじめ、日本の政治家が中国や韓国に対し配慮の姿勢を見せている。世界では歴史上、過去にたくさんの戦争が行われた。しかし現在それら各々の戦争の歴史認識の中で、国内政について他国が口出ししているのは靖國問題を除いて皆無である。こういう状況において我々日本人はしっかりと歴史認識、宗教感を持ち、中国や韓国の主張する問題が、憲法の政教分離、信教の自由の上でどう説明されるのか、また納得できないそれらの主張に対し、きちんとした日本人としての心のあり方、国のスタンスを持つて方向を間違えないように如



何に主張し対処して行くのか、今が正念場といえる。それにはまず、国民の一人一人が自国の歴史に正しく向き合い、認識理解しなければならぬということをも痛切に感じる。

時局講演会

日時 平成十七年九月二十六日(月)

極限で

私を支えたもの

財団法人小野田自然塾 理事長
元陸軍少尉

小野田寛郎先生

この時局講演会は激動する時局の問題を見つめながら、戦後選挙政策ですっかり骨抜きにされた日本の真の姿を取り戻そうとの主旨で始まった。今回の講演会は、戦後六十年目に相応しい講師の先生をお迎えし、戦時の極限に身を置きながらも、日本の将来を信じ、勇敢に闘い抜かれた貴重な経験をお話頂いた。小野田先生のお言葉をお借りして講演のダイジェストをご報告申し上げます。

■極限というのは、普通遭難したとき等によく使われる言葉です。私の場合は敵の中に残って孤立無援三十年戦い続けて人間の極限を要求された。私は陸軍予備士官学校を出て将校になり、中野学校では情報員として戦術ではなく戦略を学んだ。そして昭和十九年の十二月にフィリピンの軍司令部に派遣された。

■当時、東京爆撃も始まり戦局は悪化の一途をたどり、米軍が明日にもルソン島に上陸するという切迫した情況下、軍の判断はフィリピンで決戦は無理だ、しかし占領される

れると沖縄も駄目になり決戦場は南九州になる。南九州で今迄の連戦連負を跳ね返し、少しでも有利に終戦の話を持ち出そう、負ければ米軍の日本占領がある。その時は中国にいる八十万人の陸軍が戦局を引き伸ばし、民主国家アメリカの弱点である国民に戦意を失わせる方法を取ろうということであった。実際に後のベトナム戦争で米軍は圧倒的な軍事力を持ちながらも撤退し、その後遺症は今に残っている。

■米軍は巨大な軍事基地をフィリピンのマニラに持っていた。日本はそれを牽制する



■そして五年後に朝鮮戦争が始まり、米軍の行動が活発化する。私の目には当初命令の日本反撃の時期に映った。続いてベトナム戦争、ますます米軍の行動が活発になり、毎日マリアナ諸島の基地から出発する数多くのB52戦略爆撃機が頭上を西に向かう。私は日本が本土を占領され海外政権となり、今度は南の対岸まで勢力を拡大していると考えた。そんな三十年間であった。

ように見せ掛けながら、実は大陸での戦闘を狙っていた。そんな中、私はマニラのすぐ目の前にあるルバング島に派遣された。私の受けた命令はあくまで生き続けること、活躍の時期は日本が占領された三〜五年後の反撃にあった。情況が不利でも他の島への移動を禁じられ、仕事は情報員の存在を敵に見せながら牽制するということであった。当時ルバング島は飛行場のできる唯一の軍事的重要な島であり、米軍はリーダーサイトを建設するべく島内に道路を造っていた。

■島に派遣された後、二月にマニラが陥落、そして本土に原子爆弾が投下、八月十五日の終戦を迎えた。しかしルバングには終戦の知らせも投降の命令もなかった。また米軍による終戦告知のビラも信用はできず、私は八月十五日を日本が米軍に占領された目だと信じた。

■三十年間私を支え続けたのは受けた命令であった。命令という受身のようなが、自分達がやらなければ誰が請け負うのかという強い気持ちを持っていた。その代表的な表れがご存知の特攻隊である。

私は特殊な命令を受けて戦い続けた。しかし実情は終戦処理を米軍が行ったことによりねじれていた。しかし私は単に命令だけでなく自分の判断で如何に困難でも戦い、生き続けることを決断した。これが選ばれた人間のプライドだと信じた。はっきりとした目的意識の存在こそが、困難の中を生き通すための問題解決法や手段を考えだす一番の原動力だと考えた。

人間は強いようで弱く、少し苦しいことがあると、もう駄目だ死んだ方がましだと簡単に考える動物である。パブル崩壊後の現在、年間三万人が自殺しており、その中で経済的理由によるものが一万人。この不況がなければ一万人は死ななくても済んだ。残念なのは、自殺を選択せず、自宅の玄関で倒れるまで何故頑張らなかつたのかということだ。人は苦境を打開する潜在能力や潜在意識を生み出す力を持っているのだ。

■ルバング島ではいよいよ米軍の艦砲射撃が始まると戦闘部隊でない我々は銃も手榴弾も少ない状況で、山の中に分け入り敵をこずらす作戦を取った。しかし部隊は見つかれば挟み撃ちに合い、二百数十名が退路を断たれる状況にあった。このままではやられる、なんとか敵の後ろに回り敵を排除しなければと思った。意を決し自分が先頭に立ち戦いに挑んだ時のことである。

■突然周りにある葉っぱが、葉脈まで見えるほどはつきり目に映った。明るさで言えば四、五倍も明るく、車のヘッドライトで照らしたように見えた。これ程よく見えるのなら敵が少しでも動けば発見できる。地形は判っているので、先に隠れて手榴弾で攻撃しようと考えた。私は先頭に立ち、敵を征圧することさえできると自信を持った。本当に不思議だった。しかしその後の島での三十年間で、こんな出来事は一度もなかった。

■このように人は命がけて決心し自分の心が集中できる時、素晴らしい潜在能力が発揮できる。昔から「天はみずから助くるものを助く」というが、他人をあてにすると自分の能力を発揮できない、アメリカのサバイバルマニユアルの冒頭、「サバイバルとは生きる望みを失わないことだ」とある。サバイバルとは従来通りの方法で生きられなくなったときをさす。その解決法は

現状を正確かつ迅速に判断、把握すること。そして決定した方法を全力で遂行すること。時間が経過するほど益々不利な方向に追いやられる。と具体的に書いてある。決死で行動しない限り難局は打開できないということを教えている。私たちは本当に生きなければ、やらなければというはつきりした目的がない限りつい眼前の弱さに負けてしまうものだ。

■島ではいよいよ敵が上陸して部隊がばらばらになってしまい、そこから湿度の多い過酷な条件の中、敵と戦い、餓えをしのぐための工夫を凝らしながら長いジャングル生活が始まった。しかし私は常にやってみなければ判らない、目的意識を失わず、生まれて来た以上は生きる能力が必ずあるのだということを信じて三十年間生き続けた。

戦後三十年もの長きに渡って強靱な精神で最後の一人まで闘い続けられた。そのことは当時、私たち日本人の心に強い感動を与えてくださった。あれから三十余年。小野田先生は財団法人小野田自然塾を通して「人は一人では生きられない」「社会の恩恵、自然の恩恵を決して忘れてはならない」と、常に語り続けて青少年の育成に力を注いでおられる。

第十九回 神道政治連盟京都府本部会員大会

とき 平成17年7月5日(火)
ところ 八坂神社常磐新殿

会員大会第二部

「戦後六十年目の教育改革」

何を守り、何を 変えるべきか

本年も去る七月五日火曜、八坂神社常盤新殿に於いて神道政治連盟京都府本部の第十九回会員大会が盛大に開催された。

第一部は午後一時、当本部 竹内副本部長により開会の辞、儀礼をもつて始まり、林本部長の式辞。功勞者表彰、本年は亀岡市神社総代会理事 西田 修氏、並びに賀茂別雷神社 榎宜 今井 守氏のお二方が受賞。続いてこ来賓の紹介、そしてこ来賓



のこ代表として、神道政治連盟幹事長の要職の中山高嶺氏を始め、京都府神社庁副庁長齋藤重介氏にご祝辞を戴いた。

こ来賓代表の神政連幹事長 中山高嶺氏のご挨拶の内容をご報告したい。先般、六月二十八日、天皇皇后両陛下はサイパンへ戦没者の慰霊に行かれ、バンザイクリフにおいて頭を深々とお下げになり、英霊に対して感謝の誠を奉げられた。しかし、日本の国の中ではこの陛下のなされた事に対し恐れ多くも様々なことを言う人がいる。皇室の尊厳護持は何を置いても我が神政連はあらゆる角度から対処して行かなければならない。

昨年十一月神道政治連盟は三十五年周年を迎えた。神政連が三十五年の間に培ってきたことは、元号法制化の問題、国旗国歌の問題、昭和の日の制定など数多い。これは会員をは

じめ皆が国会議員を通じ働きかけて来たことが実を結んだ。大切な教育の問題。とりわけ教科書の問題。現場教育の行き過ぎた性格教育の問題。教育での歴史認識の問題。我々が習った歴史教科書と現在の教科書とは内容が全く違う。うそは書かない、過大表現もしない歴史に忠実な教科書が必要である。

現在国会の中では人権擁護法案を作ろうとしている、これが可決されると日本が北朝鮮のような国になりかねない。これは男女共同参画、ジェンダーフリー思想を背景にした擁護委員の選び方にある。

先般東京の青年会議所の方々が統一意見として小泉首相の靖國神社への参拝を促す要望書を自民党本部に提出。神社界以外でもこのような活動があり、中国との経済問題の間で、商工会議所や日経連が中国に配慮を

な教育をするかは、まさにどんな国家を目指すかに直結する問題だと考えているためだ。

今後の教育を考えるにあたり、まず現在の座標軸を考えたい。今年ロシアと初めて平和的に国境を定めた日露通好(修好)条約締結から五十年。国力が十倍のロシアを破っ

示す中のこの行動は心強い。中山幹事長のご指摘通り、我々の周りには様々な意図の外圧が蠢いている。これら一つ一つを丹念に紐解き、日本人として正しい方向へ導く尖兵たることが我々の活動の根本であると信じる。





年の教育改革
ありむら治子先生

参議院議員比例(全国)区選出
神道政治連盟国会議員懇談会副幹事長
ありむら治子先生

た日露戦争から百年。何百万人もの死者を出した第二次世界大戦終結から六十年。自由民主党結党から五十年と、まさに節目の年である。歴史学では、一つの社会的事象の歴史的评价が変わるには五、六十年を要すると言われる。戦後という時代の新しい解釈が客観的に可能になってきた時期でもある。

最近、戦後教育との決別が論じられる。六十年前、GHQは敗戦国日本の規律性の高い国民性を変えるために教育改革に着手し、三教科の教科書を焼却処分にした。歴史、修身(道徳)と地理である。なぜ地理なのか。その戦略性を読み解くヒントが、昨年末

の中国原子力潜水艦による日本の領海侵犯事件だ。原潜の中国兵たちは太陽光も入らず、一切音を立てることも許されない直径10メートルの艦内で、海上自衛隊が初めて発したアクティブソナーの鋭い音波を五十時間以上も受けながら、浅瀬を通過して逃げ切っ

た。それは、中国の軍事当局が日本の地形を精密に測量し、すべて把握していた証左だ。また、冷戦終結後のいまもなお年に一、二度、ロシア戦闘機が日本の領空を侵犯している。制空権は我々の安全にとつて極めて重要にもかかわらず、こうした状況が報じられても、危機感を訴える国民運動は起きない。このことをとても、我が家を、故郷を、そして国を守るためにどんなアクションを取るべきかを考える基本である「地理」を教えることを禁じた戦勝国の戦略性を戦後六十年目にして改めて感じざるを得ない。

この春日本は、中国と韓国から歴史認識、教科書問題で外交的揺さぶりを受けた。共産党一党独裁の中国は、かつて民主化に立ち上がった学生に戦車で立ち向かい、流血の惨事を招いた天安門事件や、何万人もの文化人を粛清した文化大革命の本質を、みずからの国定教科書に載せることのない国家である。民主化が進んだ韓国では、多くの教科書が日本と同様に民間によって書かれているが、国史(歴史)、倫理(道徳)、国語(ハンゲル)の三教科だけは国定教科書を使用している。これらの教科は、その国を国家ならしめる上で極めて重要な分野であり、その国の

アイデンティティーをつくる土台となる教科である。日本も「戦前の反省」という名の反動の振り子が揺れすぎた戦後数十年の歴史を経て、真の日本人としての国民性をどう創っていくのか、真剣に考えねばならない。

私は結婚六年目にやつと子供を授かった。一歳八カ月の娘の寝顔を見ながら「私たちはこの子たちにどんな社会を残してあげられるだろうか」と考える。母親になってみて、日本人の文化、平たく言えばお年寄りの格言、知恵を、私達がしっかりと引き継ぎ、次世代にバトンタッチしていく「世代間が織り成す社会のタテ糸」の重要性を強く感じるようになった。歴史軸を持った「社会のタテ糸」と同世代の連携でなす「社会のヨコ糸」がしっかりと編み合わさってこそ、家族の一員としての役割や、地域住民としての自覚、国民としての誇りが芽生えてくるのではないだろうか。戦後に「ヨコ糸」が強調されてきた分、「タテ糸」の伝承が弱くなった。いまこそ私たちのアイデンティティーを確認し、未来への視座を持つために社会のタテ糸を再構築し、生き残るための知恵や風土の伝承を将来に活かす姿勢が求められる。

現在、年間百十一万人の新生児が生まれる一方、毎年三十四万件の人工中絶(自然流産を含まず)が行われ、うち四万五千件は十代の女性による堕胎だ。その多くは、いわゆる援助交際の結果だが、補導された彼女たちが最初に口にするのは「あなたに迷惑かけてないんだから、私の体をどうしようと私の勝手じゃない」という言葉だ。これに対して大人はどんな言葉をかけてあげればいいのか。これは私たち大人に対する根幹的、本質的な問いかけであり、大きな社会的課題だ。いま私たちが37℃の体温を保っているのは、両親とその祖父母、曾祖父母、さらにその両親と、さかのぼれば想像できないほど多くの人たちが命を継いでくれたからであり、その中の一人でも欠けていたら、私たちは存在しない。「私たちは今、先人の想いがいっぱい詰まった命のリレーのタスキを掛けて駅伝を走っている中間走者なのだ」ということを次世代にいかにか説き、誠実に行動に示せるか、まさに私たちの生き様が問われているのだと思う。

年金問題や少子化対策は本来、まず一人ひとりが自話を目指して主体性を発揮する自助、次に互いに助け合う共助、それでできない部分は公

ありむら 治子先生 プロフィール

昭和45年9月21日生まれ
 滋賀県出身、近江兄弟社高校を経て、ICU国際基督教大学教養学部卒業。米国SIT大学院において、人材開発・国際経営学専攻の修士号を修得後、日本マクドナルド株式会社入社、本社管理職の人材開発に取り組む。
 社会人大大学院生として、青山学院大学大学院博士課程に在籍中の平成13年、参議院議員選挙、自民党比例(全国)区にて初当選。



がセーフティネットを設けて行う公助という順番を打ち立てるべきだと思う。

少子化社会の今、子供たちは命の誕生や臨終、命の尊厳を感じる場面を直接経験することが少なくなった。命の誕生も臨終も専門施設で行われることが多い。

私と考え方を共有する七十代の北海道の小児科医は「僕が孫にできる最後のプレゼントは、孫の前で最期にまぶたを閉じることだ。人間の臨終を直視した孫は、人生が有限であることを覚悟して精いっぱい心豊かな人生を歩んでくれると信じている」と話されていた。

子供と接した実体験のない世代が、現在結婚適齢期になっているが、「結婚したい、子供を授かりたい」という誘引は非常に低い。これでは親から子、孫への伝承が途絶えてしまう。このタテ糸を補う仕掛けを地域でどうつくっていくかが、地域活性化のうえで重要なポイントではないだろうか。子供たちが外で安心して遊べる地域では、人口は少なくとも若い

夫婦が定住を決め、地域活動に知恵と汗を出そうと努力している。地域の防犯力、教育力、活性化力は一体の問題だ。

現在の日本の教育で絶対に足りないのは、「聞き、話す訓練」だ。相手の話を戦略的・協動的・批判的に聞き、また考えの違う相手にその人格を否定せずに自らの持論をわかりやすく論理的に話す訓練が必要だ。文化や言語、宗教や価値観の違う人々と、対等にたくましく渉り合っていく技能・論理構成力こそ、まず母国語で徹底的に磨くべきだと考える。

現在「領土問題」に取り組んでいる。独立国家をなす要件が、国民と領土と主権だとすれば、私達は、領土や主権の問題を、次代を担う子供たちにしっかり伝えられているだろうか。現在、大学生の中には「北方領土はロシアにあげたのでしょうか」「ロシア人が長年住んでいるのだから、日口友好のために北方領土をあげてしまえばいい」と言う学生もいる。これは学生が変容したのではなく、日本の教育において、領土問題をしっかり教えてこなかった教育行政に問題がある。現在小中高で使われている社会科の教科書五十七冊を調べたところ、北方領土を含む領土

問題の記述は欄外に2センチ程の記述というものが殆どだった。
 ロシアが言う「二島返還」の歯舞諸島と色丹島は北方領土全体のわずか7%にすぎない。二島返還論がいかに一方的にロシアを利する論理か、また四島を合合わせると、人口約五百万人の福岡県より大きいことも、多くの国民は知る機会がない。ソ連は日ソ中立条約を無視して終戦の一週間前に参戦、終戦から二週間後に奇襲をかけて北方四島を不法占拠した。一万八千人の島民の半分は先祖の遺影を持って本島に避難し、半分はソ連に抑留された。「あと何年待ったら先祖の眠る島に帰してもらえるのでしょうか。私の目の黒いうちに島に帰らせてください」と言う腰の曲がった八十代のおばあちゃんの声に目頭が熱くなった。

ドイツの法哲学者イェーリングは「領土の一部を失って黙っている国民は、領土のすべてを失う危険を負う」と言う。韓国の国定教科書「国史」では、竹島が韓国固有の領土であることを写真と歴史的背景を含めて一ページにわたって掲載しているのに対して、日本の教科書で竹島について触れていたのは、わずか四冊だけだった。日本の子供たちは領土問題が存

在することすら教わらず、日本にも固有の領土観や歴史観があることも知らずに大人になっていくのだ。私がこのことをNHKが全国中継した予算委員会で小泉純一郎首相に質問したところ、全国から「北方領土は右翼の問題ではないことがよくわかった」とか、社会科学の先生方からは「領土について教えることがいかに大事か。これから心して授業にあたりたい」など、多くの電話やファクス、メールを頂いた。

外交でどんなに優れた理念を説いても、それを支持する世論抜きには成功しえない。日本固有の領土に関心を持つ国民が増えることが、平時における最も大事な安全保障政策になっていく。

残念ながら戦後、教育がイデオロギー論争の具にされた時代が長く続いたが、歴史に学び、その知恵を未来に活かそうとする姿勢、気概を持つのが保守の使命だと認識している。私もしっかりとした国家観と地に足をついた生活観を併せ持つて、歴史の評価に耐えうる教育行政、政治を志したい。そのための知恵と勇気を与えていただければ大変ありがたい。

7月 文 月

- 7月21日 ・京都府神社庁 関係団体代表者懇話会 林本部長他出席 (於 京都府神社会館)
- 7月23日 ・日本会議京都内部研修会 林本部長出席 (於 京都府神社会館)
- 7月24日 ・おがたまの木コンサート 林本部長以下関係者出席 (於 京都文化博物館)
- ” ・清政39号(35周年特別号)編集会議 林本部長 吉田副本部長 梶幹事長 本田副幹事長 中嶋事務局長出席 (於 御所八幡宮)
- 7月26日 ・小泉首相靖國神社参拝(大阪)訴訟控訴審傍聴券獲得活動及び報告会 林本部長・梶幹事長 (於 大阪高等裁判所及び大阪府神社庁)

8月 葉 月

- 8月15日 ・終戦60年国民の集い 林本部長出席 (於 靖國神社)
- 8月20日～8月21日 ・天皇皇后両陛下御入洛御奉送迎 (於 京都市内各所)
- 8月21日 ・京都府神社総代会中支部 竹内副本部長出席 (於 プラザホテル吉楽園)
- 8月26日 ・日本会議・京都17年度総会 林本部長以下関係者出席 (於 キャンパスプラザ)
- ” ・教育基本法改正運動セミナー講演会 林本部長以下関係者出席 (於 キャンパスプラザ)
- ” ・京都府本部三役会 林本部長以下三役出席 (於 京都センチュリーホテル)
- 8月 ・第44回衆議院議員総選挙京都府選挙区候補者への推薦状発送
- 8月28日 ・京都府神社庁神職大会林本部長以下関係者出席 (於 舞鶴グランドホテル)

9月 長 月

- 9月1日 ・京都府本部監査委員会開催 (於 北野天満宮)
- ” ・京都府本部役員会及び懇親会開催 (於 北野天満宮及び豊しげ)
- 9月6日 ・神政連中央本部役員会 林本部長出席 (於 神社本庁)
- ” ・京都府戦没英霊追悼慰霊祭献笛奉仕依頼 梶幹事長 中森事務局員出向 (都山流尺八楽会)
- ” ・衆議院選挙神政連中央本部推薦状配布 梶幹事長 中森事務局員出向 (京都市内候補者各選挙事務所)
- 9月10日 ・山城四支部連合総会 竹内副本部長 (於 離宮八幡宮)
- 9月11日 ・皇太子殿下御来京御奉送迎 (於 京都市内各所)
- ” ・第44回衆議院議員総選挙投票日
- 9月 ・衆議院議員京都府本部推薦者当選者への祝電を送付
- 9月14日 ・京都府戦没英霊追悼慰霊祭打合せ会 竹内副本部長以下関係者出席 (於 松尾大社)
- 9月20日 ・京都府神社総代会歳暮支部総会 梶幹事長出席 (於 かつうら御苑)
- 9月24日 ・第34回交通慰霊祭 林本部長以下関係者参列 (於 西陣織会館)
- 9月26日 ・京都府戦没英霊追悼慰霊祭並びに時局講演会 (於 松尾大社)
- ” ・第1回定例代議員会開催 (於 京都府神社会館)
- 9月30日 ・靖國台湾人訴訟(判決)傍聴券獲得活動及び報告会 林本部長・梶幹事長 (於 大阪高等裁判所及び大阪府神社庁)

10月 神無月

- 10月13日 ・京都府神社庁神宮大麻・曆頒布始奉告祭 林本部長参列 (於 京都府神社庁)

11月 霜 月

- 11月9日 ・京都府本部役員会 林本部長以下出席 (於 八坂神社常磐新殿)
- 11月17日 ・京都府神社庁新嘗祭 林本部長参列 (於 京都府神社庁)
- 11月23日 ・日本会議・京都 教育基本法改正促進京都府民会議 (於 ホテルグランヴィア京都)
- 11月29日～11月30日 ・沖繩京都の塔慰霊参拝団結成 林本部長以下関係者参加 (於 沖繩県)

12月 師 走

- 12月1日 ・洛西支部神宮大麻・曆頒布始奉告祭並びに総代会総会 林本部長参列 (於 松尾大社)
- 12月7日 ・京都府本部創立35周年記念式典・祝宴 (於 ホテルグランヴィア京都)
- ” ・心の教育・女性フォーラム 第5回教育シンポジウム (於 ホテルグランヴィア京都)
- ” ・清政39号(35周年特別号)発行

御製を拝して。

波 平成六年歌会始

波立たぬ世を願ひつつ新しき
年の始めを迎へ祝はむ

皇室の一年は、祈りとともに始まります。元日午前五時三十分、黄櫨染の御束帯をお召しになった天皇陛下は、宮中三殿に隣接する神嘉殿の前庭の白砂の上に設えられた御座にお着きになり、伊勢の神宮、四方の神々、そして山陵を遙かに拝まれ、五穀豊穡と国家国民の安寧を祈願されます。続いて宮中三殿、すなわち皇祖天照大御神をお祀りする賢所、歴代天皇の御霊をお祀りする皇靈殿、天神地祇をお祀りする神殿の順にご拝礼になり、歳旦祭を奉仕されます。ついで皇太子殿下も宮中三殿に進みご拝礼になります。

陛下は、皇太子時代、「朝」という御題であった昭和四十九年の歌会始で「神殿へすのこの上をすすみ行く年の始の空白み初む」とお詠みになりました。

陛下が冷たい屋外でお祀りをされているその時間、皇族の方々には、お住まいのガラス戸を開け放ち、寒風に御身をさらしてお慎みになり、ご奉仕を終えられた旨の連絡が宮内庁から入ると初めて戸をお閉めになると伺っています。黒田清子様は、報道記者から「皇族のあり方」について質問がある度に、「皇室は祈りでありたい」という皇后陛下のお言葉を引用されました。両陛下と等しく国家国民の安寧を祈願されるお心が本当に有難く思われます。

編集室だより

●子供達の変化について

文部科学省では、数年前に始めた「ゆとり教育」を、まだ熱の冷めないうちに見直さざるを得ない状況に陥っている。「ゆとり教育」の反面、塾通いの子供たちが置かれている環境の厳しさは加速し、学校側も塾を肯定し、また塾に行かない子供は落ちこぼれるという現実を容認している。

更には歴史認識を欠いた教科書が多く採択され、当たり前のように使われている。

教育現場の質の低下、モラルの低下は社会をも蝕み、その結果、その教育を受けた子供たちが大人になった時、日本はどうなるのだろうか？

また、最近フリーターではなく、ニートと呼ばれる、親に依存し勤労意欲の欠如した若者が増殖している。

戦前の日本の教育を否定した人達が親となり、核家族化が進み、個人が社会の一員として果たすべき役割があることを教えて来なかった所以である。戦前の教育を全て肯定することはできないが、戦後復興の際、日本が欧米に負けない経済成長を遂げた原点には戦前よりの日本の教育制度が大きく貢献して来たのである。

●ご意見ご感想をお待ちしています。

投稿はご氏名ご連絡先を明記の上、FAXか電子メールでお願いします。

宛先／神道政治連盟京都府本部

「清政」編集室

ファックス／075-863-6664

電子メール／

info@kyoto-jinjacho.or.jp



Shinto Association of Spiritual Leadership

このロゴマークは、わたくしたちの会名である「神道政治連盟」の英訳の頭文字SAS (Shinto Association of Spiritual Leadership) と日本古来の装飾品である勾玉(マガタマ)をデザイン化したものです。

清政 第39号

発行日 平成17年12月7日(水)

発行所 神道政治連盟京都府本部
〒616-0022 京都市西京区
嵐山朝月町68-8

電話 075-863-6677

神政連ホームページを
ぜひご覧ください。

<http://www.sinseiren.org>

編集協力 (株)ハルプロモーション

第三回 おがたまの木コンサート



日時 平成17年7月24日(日)
主催 京都の躰を語る女性の会
場所 京都文化博物館別館ホール

矢野憲一先生 五十鈴塾塾長

昭和十三年三重県生まれ。國學院大学卒業後、四十年間伊勢神宮に奉職。元神宮禰宜。神道文化賞・樋口清之博士記念賞・児童福祉文化奨励賞・日本旅行記賞など受賞。著書に「伊勢神宮の衣食住」東京書籍、「サメの世界」新潮社、「魚の文化史」「枕の文化史」講談社など多数。

クチャーされた。

第一幕は生態の全貌が謎に満ちた魚「鮫」の研究のバイオニア、矢野憲一先生が「鮫と鯨の子育て」の演題の下、静かに演壇に上られた。そして先生は自らの人柄を表すかの如く穏やかな微笑みを浮かべながら、私達会場の一人一人に優しく語り掛けるようにスピーチを始められた。先生自身のNPO法人五十鈴塾への思い入れ、まだ解き明かされていない鮫の生き様、神に奉げる鮫の知られざる話、亀にまつわる様々な由来、そして先生は本来の顔である神職として、会場のリスナーに遍く伊勢神宮の尊さ、式年遷宮の重要さ、その歴史的な価値をわかり易くレ

お話を聞く

祇園祭の囃子の音色がまだ耳に残る盛夏の京都の街中で、懐かしき良き時代の面影を残す佇まいの京都文化博物館別館ホールにて、今年もおがたまの木コンサートが催された。コンサートも回を重ね第三回、この季節の風物詩と定着しつつあることを、リスナーが口々に代弁する。



MARIONETTO マリオネット

湯浅 隆 (ポルトガルギター奏者) と吉田剛士 (マンドリン奏者) によるアコースティック・デュオ。おがたまの木コンサート顔として3度目の出演。ポルトガルギターで奏するファドや独特のオリジナル音楽の虜になったファンは多い。

演奏曲目

・海・暗いはしけ・光の中で・南蛮渡来
・日曜はタメよ・ラティナーの誘惑
・お嬢様の秘密・花・花の集列・キンモクセイの頃・桜下漂流・わたしが一番きれいだったとき・ユーラシアン狂詩曲

音楽を聴く

そして第二幕、マリオネットのデュオが登場。何故か懐かしいポルトガルギターとマンドリリュートの世界が拡がる。オリジナルの楽曲は勿論のこと、彼らがセレクトし、アレンジを施した

素晴らしい曲、神純の旋律までもが溶け込む。二人の奏でる音楽とさり気ない仕草、ライブならではの息づかいを感じるような一体感。そして過ぎ行く時間と共に喉の渇きが透明感のあるアコースティックなサウンドで満たされて行くのを確かに体で感じることができた。年を重ねることに洗練されて行く彼らの音色には、本来のライブ活動はもとより、海外遠征、高倉健氏とのジョイント、テレビドラマの音楽担当などの実績に裏打ちされた二人の内に秘めたパワーを感じる。MCにて最後の楽曲名が告げられ、ラストの心のこもった演奏、そして静かに楽器を下ろす二人に、会場から鳴り止まぬ拍手、そしてそれに答えた彼らの取っておきのアンコール。敬虔なマリオネットフリーク達の心の魂が私にも乗り移ったような感覚に陥った。このコンサートの持つイメージをあえて言うのであれば、古き良き映画、上質なワインなどのそれと同質のものであるという表現が正しいと私は信じる。